尚徳寮

令和２年７月２２日
鳥取大学附属中学校
Ｎｏ．４

○４月７日の始業式、８日の入学式で始まった令和２年度ですが、本日授業終了日を迎え、大きな節目となります。その間には、４月 20 日から連休明けの５月６日まで臨時休業となりましたし、学校再開後の生活も、今までとは大きく違ったものとなりました。密閉、密集、密接の「三つの密」が生じやすい環境を減らした様々な制限・制約のある生活でした。その中で生徒たちは、「新しい生活様式」の意味を理解し、意識を高く持って行動しようとしていました。
○夏休みに入っても、熱中症やコロナウイルスへの対策をしながら、健康に気をつけて充実した生活が送れるよう頑張ってください。保護者の皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

運動会・文化祭に向けて　Connect-壁をこえたその先に-

○運動会に向けて、準備を始めました。各クラスが学活で、種目責任者や各自が出場する種目を決めたり、学級のシンボルとなる学級旗のデザインの図案を考えたりしました。文化祭についても、2・3年生は合唱コンクールの自由曲を決定したり、全クラスで指揮者・伴奏者を決めたりします。そして、夏休み前の 15 日には、学年を超えた生徒相互の交流を図り、附属中全体の連帯感を深めていくことをねらいとした縦割り結団式を行いました。3 密を避けるため、今年はクラスごとに時間をずらして行いました。
○既にご案内しましたように、新型コロナウイルス感染症への対策として、本年度の運動会はプログラムを午前中に縮小したり、保護者の参加についても 3 年生の保護者の方のみに制限したりと、例年とは違う形での開催となります。11 月に予定している文化祭については、後日案内をさせて頂きますが、現時点で、11 月 9 日（月）の午後に本校武道館でのステージ発表及び 10 日（火）にはとりぎん文化会館梨花ホールでの合唱を中心とした発表を予定しています。
○運動会・文化祭ともに例年とは異なる形での実施となりますが、目指していることは昨年までと変わりません。よりよい運動会演技や合唱を目指して、学級や学年、さらには縦割りグループの中でお互いに関わり合う中で、学校生活での充実感を実感して欲しいと願っています。そのために、限られた時間を有効に活用しながら充実した練習となるよう、取り組んでいきます。
○運動会・文化祭などの大きな行事への取り組みとともに大切なのは、日常の生活を向上させることです。前期生徒会活動として、現在実施している活動の 1 つが「附中マナーアップ活動」です。生徒会執行部の生徒が、校内での呼びかけの放送や、JR 鳥取大学前駅で、汽車に乗車する際に１列に並ぶ等のマナーの向上を目指して、駅付近での声掛けをしています。このような地道な取り組みを生徒主体で継続していきましょう。

文化祭合唱コンクールに向けた学年集会

大学前駅でのマナーアップ活動

縦割り活動結団式を行いました。

○夏休み前の 15 日に縦割り結団式を行いました。

○ 3 年生のリーダーの進行により、前半はリーダー紹介、運動会で行う 3 つの種目の演技説明を行い、後半はチームごとの場所へ移動し、メンバーの顔合わせ・自己紹介後、運動会への想いを伝え合いました。最後に、３年リーダーから注意事項や心構えについて話があり、残り時間は作戦タイムとしました。

○夏休み明けには、4 回練習を行い 9 月 5 日の当日を迎えます。ねらいを達成し、一人ひとりの成長に繋がる活動となることを期待しています。

縦割り仲間創り企画 ～学年の壁を越えてConnect～

対面式や生徒総会など全校生徒が集まることができない状態が続く中、少しでも先輩・後輩の縦の繋がりを深めようと、執行部が仲間創りの活動を企画しました。ゲームを通しての小グループでの交流でしたが、今の状況で実施が可能となるよう工夫されていました。

学ぶ力を育む　「やりくり」授業の開発に向けて

○本年度の研究発表大会は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、「学ぶ力を育む『やりくり』授業の開発」をテーマとして校内での研究を継続しています。そして、現在研究している内容を「ふぞく研究ラウンジ」という広報紙に掲載しました。

○鳥取大学附属学校部は広報紙「ふぞく研究ラウンジ」を年 2 回発行しています。発行の目的は、県内の全ての幼小中高の先生方に、附属学校４校園で取り組んでいる教育研究の「今」をお知らせするとともに、地域の教育関係者の皆様とともに地域の教育について考えるための「対話」の場を作りたいということです。

○今年度第１号に寄稿した附属中の取り組みの一部を抜粋して以下に掲載します。保護者の皆様にもご一読いただきまして、附属中学校の目指している授業について理解を深めていただければ幸いです。

附属中学校における「やりくり」授業の開発

附属中学校では，「学ぶ力を育む『やりくり』授業の開発」という研究主題を設定し，生徒が自ら思考をすすめていく授業の方法について研究を進めています。「やりくり」とは，問題解決する過程において，その時点で持っている知識や技能をどうにか用いて工夫することと定義しています。具体的な行為として，試行錯誤や知識の共有などが表出すると考えられます。

これからの社会は情報化，グローバル化などが進む知識基盤社会と呼ばれる中で，様々な変化に対して新たな価値を生み出し，創造的に生きていく力が必要とされています。そのような社会では，自ら学ぶ意思を示し，既成概念を超えて思考する力が求められると考えられます。このような時代を生き抜く人材を育成する観点から，「やりくり」授業を開発し，その効果を明らかにしていくことは，大学附属としての重要な責務であると考えています。

昨年度研究発表大会公開授業より